

2022年7月15日

国土交通大臣 齊藤 鉄夫様

子守唄の里・五木を育む清流川辺川を守る県民の会

代表 中島 康

〒860-0073 熊本市西区島崎 4-5-13

携帯 090-2505-3880

清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域郡市民の会

共同代表 岐部 明廣

美しい球磨川を守る市民の会 代表 出水 晃

学識者懇談会に関するあり方と運営についての抗議文書

気候不順のおりから、貴職におかれまして、益々、ご清祥のこととお喜び申し上げます。また日頃より、球磨川の治水にご尽力いただき、感謝申し上げます。

このことにつきまして、先の6月24日に球磨川河川整備計画の策定を目指して貴職は学識者懇談会を開かれました。

同懇談会の小松利光委員長は、球磨川の治水対策として、流水型ダムが最適であるとしたと報道されています。しかし、先に開かれた公聴会やパブリックコメントでは、多くの方が流水型ダムに反対し疑問を述べたのであって、同氏の発言はこれらの指摘を踏まえたものではありません。公聴会では、公述人33名の内25名がダムに反対の意見を述べたのです。これは公述人の75%になります。

緊急放流は起こらないという説明がなされたとも聞いていますが、地球温暖化に伴う線状降水帯の発現で、いつどこでどのような雨が降るか予測ができない状況となっているとき、ダムによる治水は緊急放流により下流に大きな被害をもたらします。また、ダムの直下流では、天端から流下した破壊力のある洪水が、下流の人命を奪います。このような、公聴会やパブリックコメントで示された疑問に対し、学術的な説明をして、整備計画の策定に資するのが学識者懇談会ではないのでしょうか。

最初から結論を決め、参加の委員に押しつけるのが同会の運営であってはなりません。私たちは、学識者懇談会のあり方の改善を求めるとともに、住民の意見を聞こうとしない国土交通省の運営に対し抗議するものです。

また、この懇談会の議事録は公開されるのでしょうか。住民にとって、議事録の公開がなければ、どのような議論がなされているのか知ることができません。

なお、前回の学識者懇談会では、事業の費用対効果は0.4であると説明された
とのことですが、1.0を下回っても事業を継続することができるのでしょうか。併せて
お尋ねします。 以上